

MySQL 5.1.52sp1 リリースノート（日本語翻訳）

機能の追加と変更

- **IBMDB2I** ストレージエンジンのサポートが廃止された（Bug #58079）。

修正されたバグ

- **矛盾を含む可能性がある変更:** `auto_increment_increment` が 1 より大きいとき、カラムの最大値に達するような大規模な挿入によって生成された値が折り返され、オーバーフローエラーが発生する可能性があった。

今回の修正結果により、自動生成される値が **BIGINT UNSIGNED** の最大値と等しくなることはなくなる。ただし、カラムで許容される場合には、このような値を手動で格納することは可能である（Bug #39828、Bug #11749800）。

- **重要な変更: パーティショニング:** パーティショニング関数として使用される日時関数は、オペランドの型がチェックされるようになった。そのため、型の正しくない値は許可されない。また、`col_name` が **DATE** または **DATETIME** カラムであるとして、`EXTRACT(WEEK FROM col_name)` は全面的に許可されない。戻り値が `default week format` システム変数の値に依存するためである（Bug #54483、Bug #11761948）。

参考: Bug #57071、Bug #11764255 も参照。

- **InnoDB: InnoDB** システムテーブルスペースは、負荷の高いサーバで絶えず増大することがあった（Bug #57611）。
- **InnoDB: InnoDB** テーブルに対する `ALTER TABLE` の操作中にサーバがクラッシュした場合に、`SHOW CREATE TABLE` でテーブルを調べると、または **INFORMATION_SCHEMA** テーブルをクエリすると、サーバが表明エラーで停止する可能性があった（Bug #56982）。
- **パーティショニング:** `ALTER TABLE ... PARTITION` ステートメントに失敗すると、メモリリークが発生する可能性があった（Bug #56380、Bug #11763641）。

参考: Bug #46949、Bug #1175209、Bug #56996、Bug #11764187 も参照。

- [SET GLOBAL debug](#) を実行すると、サーバがトレースファイルを開けなかった場合に Solaris でクラッシュが発生する可能性があった (Bug #57274)。
- 同じ変数を二重で割り当てたときの Valgrind 警告が修正された (Bug #56138)。
- ビューの作成で Valgrind 警告が発生する可能性があった (Bug #57352)。
- [GROUP CONCAT \(\)](#) を使用するクエリで、[EXPLAIN](#) がクラッシュする可能性があった (Bug #58396)。
- ステートメント準備またはビュー作成のコンテキストで不要なサブクエリ評価が実行され、サーバがクラッシュする可能性があった (Bug #57703)。
- [MIN\(year col\)](#) は、場合によっては正しくない結果を返すことがあった (Bug #59211、Bug #11766165)。
- ジオメトリ値が `NULL` のとき、[Item_func_spatial_collection::fix_length_and_dec](#) でクラッシュが発生する可能性があった (Bug #57321)。
- FreeBSD で、`SIGHUP` シグナルを使用して `mysqld` を停止すると、[InnoDB](#) の `.ibd` ファイルが破損する可能性があった (Bug #51023、Bug #11758773)。

※本翻訳は、理解のための便宜的な訳文として、オラクルが著作権等を保有する英語原文を NRI の責任において翻訳したものであり、変更情報の正本は英語文です。また、翻訳に誤訳等があったとしても、オラクルには一切の責任はありません。